

公表

放課後等デイサービス事業所における自己評価総括表

| | | | |
|----------------|-------------|----|---------------|
| ○事業所名 | サニー・キッズ・クラブ | | |
| ○保護者評価実施期間 | 令和8年 1月 5日 | | ～ 令和8年 1月 30日 |
| ○保護者評価有効回答数 | (対象者数) | 32 | (回答者数) 22 |
| ○従業者評価実施期間 | 令和8年 1月 5日 | | ～ 令和8年 1月 30日 |
| ○従業者評価有効回答数 | (対象者数) | 7 | (回答者数) 7 |
| ○事業者向け自己評価表作成日 | 令和8年 2月 4日 | | |

○ 分析結果

| | 事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること | 工夫していることや意識的に行っている取組等 | さらに充実を図るための取組等 |
|---|--|--|--|
| 1 | 一人ひとりの特性や発達段階に応じた個別療育を重視するとともに、『ルールを守る・順番を待つ』などの社会性を育む集団療育にも取り組み、小学生と中学生それぞれの発達段階や生活背景の違いを踏まえた支援内容となるように配慮しながら、利用者の興味・関心や成長に合わせて活動プログラムを定期的に見直し、マンネリ化しないように考えています。 | ・個別療育の際は、1対1での取り組みを基本としています。 ・小学生・中学生の発達段階や生活経験の違いを意識し、同じ活動であっても、目標や関わり方を調整しています。小学生には分かりやすいルール提示や成功体験を大切に、中学生には、主体性や自分で考えて行動する力、育む関わりを意識しています。 | ・療育内容のさらなる充実に向けて、小学生・中学生それぞれの発達段階や将来像をより明確に捉え年齢や成長に応じた支援目標の整理や活動内容の細分化を行います。特に中学生については、生活力や社会性の向上を意識した活動を増やし、将来を見据えた支援の充実を図っていきます。 |
| 2 | 支援の質と一貫性を高めるため、定期的かつ必要に応じた会議・ミーティングを実施し、小学生から中学生までの成長段階を見通した支援の在り方や対応方法について職員で共有・共通理解を図り、統一した支援が行える体制を整えています。 | ・日々の支援について振り返る時間を設け、利用者の様子や支援の工夫点・課題を職員間で共有しています。小学生・中学生それぞれの対応についての意見交換を行い、支援方法の見直しや改善点につなげています。 | ・日々の情報共有に加え、支援の経過や成長の変化をより分かりやすく整理・共有する方法を検討していきます。今後も職員間で意見交換を行いながら支援内容を見直し、より良い支援に繋げていきます。 |
| 3 | 保護者連絡アプリや電話等のツールを活用し、小学生・中学生それぞれの発達段階や生活状況に応じて日々の様子や支援内容を丁寧に共有するとともに、保護者の不安や相談に迅速に対応できるよう、継続的なコミュニケーションを大切にしています。 | ・連絡アプリや電話を活用し、日々の様子だけでなく、成長の変化や気になる点についても丁寧に共有しています。中学生については、思春期ならではの悩みや将来を見据えた相談にも寄り添い、保護者が安心して相談できる関係づくりを意識しています。 | ・日々の情報共有に加え、節目ごとに支援の振り返りや成長の様子を共有する機会を設けることを検討し、保護者との相互理解を深めていきます。保護者の声を支援に反映できるよう、双方向のコミュニケーションをより大切にしていきます。 |

| | 事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること | 事業所として考えている課題の要因等 | 改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等 |
|---|---|--|--|
| 1 | 事業所の設備面について、安全面や利便性に配慮しながら改善を進めているもののバリアフリー化が十分でない箇所があります。 | ・要因として、建物の設計・構造上の制約やスペースの限界があり、全面的な改修が難しい状況が考えられます。 | ・建物の構造上の制約を踏まえ、動線や備品配置の工夫、職員の見守りの強化など、現状の環境でできる安全対策を継続していきます。併せて、将来的な設備改善に向けた検討も行っていきます。 |
| 2 | 保護者や家族が参加できる研修会や保護者同士が交流できる機会について実施方法や時間帯の工夫が十分とは、言えず参加しやすい環境づくりが課題となっています。 | ・研修会は、平日開催が中心であることや家庭や仕事の事情により参加が難しいことに加え、事業所側の人員や時間的制約から実施方法の工夫が十分でない点が考えられます。 | ・開催日や方法を見直し、電話やオンライン等も活用しながら、保護者が参加・相談しやすい機会づくりを今後も検討していきます。 |
| 3 | 学童や児童館、他事業所、地域のみなさんとの交流について、連携の機会が限られており、外部との関わりを通じた経験の場を十分に提供できていないことです。 | ・利用者の特性や安全面への配慮が必要であることから、交流の機会が限られている現状があります。事業所内での活動が中心となり、地域との関わりが十分に持てていない点が課題と考えています。 | ・利用者の特性や安全面を最優先としながら地域の学童・児童館、他事業所との連携を計画的に検討していきます。年に一度のマルシェでは、地域や関係機関との交流の機会を設けており、今後も、見学や少人数での交流、行事への参加など、十分に考慮した無理のない形で段階的に取り組み、利用者が社会性を育む経験の場の充実を図っていきます。 |